

「ただいま」「おかえり」と

言い合えるまちに

「シトラスリボンプロジェクト」とは？

『地域』『家庭』『職場・学校』を三つの輪で表す「リボン」を作り、身に着けたり、身近な人に手渡したりすることを通して、コロナ差別で苦しんでいる人々にエールを送り合う活動です。コロナ禍で生まれた差別や偏見をなくし、「ただいま」「おかえり」とそれぞれの暮らしの場で心から言い合い、誰もが笑顔で暮らせる社会を取り戻すために、

愛媛の有志から始まって
全国に広がっています。

二日市中学校でも…

二日市中学校生徒会の生徒たちは、「シトラスリボンプロジェクト」に共感し、先ず学校で広げ、PTAや地域へ広げようと計画し活動しています。この活動を進めている生徒会のみなさんが、次のようなことを聞かせてくれました。

生徒会によるシトラスリボンプロジェクトの呼びかけ



【生徒会役員のインタビュー内容】

○現在おきているコロナ差別でとても苦しい思いをしている人を少しでも減らしたいと思い、プロジェクトを始めました。

○4月、全校生徒に「シトラスリボンプロジェクト」について伝えて、8月の平和集会の時、全校でシトラスリボンを作成しました。

○プロジェクトに関わって、コロナ差別やその他の差別について考える機会が増え、差別のおかしさに改めて気づくことができました。

○「シトラスリボン」の取り組みを通してみんなが共感し、コロナ差別をなくそうという意識が学校全体で高まったと思います。

ただいま

私たち一人ひとりの人権を大切にし、
だれもが地域で笑顔の暮らしができる、
そんなやさしさあふれる筑紫野市を
みんなでめざしていきたいですね。

おかえり

